



送別のことば

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-08-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 福原, 行三 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/2305

送別のことば

大阪府立大学経済学部では、経済学博士市橋英世教授と鈴木和蔵教授のお二人が、昭和58年3月31日をもって、定年退職を迎えられることとなりました。予想されたこととはいえ、いまその時期を迎えますと、惜別の情まことに切ないものを覚えます。

市橋先生は大正8年5月15日大阪府南河内郡においてお生まれになり、昭和17年9月九州帝国大学法文学部経済学科を卒業されました。軍役、実業界でのご活躍ののち、昭和26年大阪府立浪速大学講師（工学部工業経営学科）、昭和28年9月同助教授を経て、昭和35年4月、経済学部に教授として迎えられ、今日に至っておられます。その間、評議員をはじめ諸種の委員を務められ、ことに昭和49年4月より経済学部長の要職に就かれ、以来3期6年間、学部ならびに大学の管理運営にも多大の貢献を果してこられました。顧みますと、32年間、働きざかりの殆んどすべてを大阪府立大学のために尽してこられたわけがあります。

先生は経済学部では、当初は経営学講座の教授として、のちにマーケティング論講座の教授として、学生の教育指導にあたってこられました。「クール・ヘッド、ウォーム・ハート」をモットーに学生に接し、学生から慕われ、その教育的影響力は尽大なものがあります。

先生はまた多くの著書、論文を学界に送られ、その研究業績は商業学、マーケティング論にとどまらず、経営学、組織論、会計学を専攻する研究者からも高く評価されております。先生は組織に関する諸問題にサイバネティクスの光を当て、数理的接近を企てられ、輝かしい研究成果をあげられました。まさにこの方面における草分け的存在といえます。先生は研究分野に常に新しい途を切り開かれ、若い研究者に指針を与えてこられたのであります。

鈴木先生は、大正8年8月20日京都市においてお生まれになり、彦根高等商業学校卒業後、軍役に就かれ、戦後、神戸経済大学（現在の神戸大学）をご卒業になりました。同大学経済経営研究所助手、滋賀大学経済学部講師、助教授を経て、昭和35年4月大阪府立大学経済学部助教授、昭和39年4月同教授に就

送別のことは

任されて今日に至っておられます。本学部においては経営学講座の教授として、研究および教育にあたってこられたほか、附属図書館委員、補導委員長などの諸職務や、さらには評議員をも勤められ、顕著な功績を残されました。

学問研究の分野では、先生はドイツ経営学を基礎に経営社会学にまで広がる経営学の根本問題の究明に苦心せられ、その一連のご研究を『経営維持の理論』をはじめとする著書、論文に結実させ、この分野において大きな貢献をなさいました。先生には、学究者としての真摯な態度と同時に、これはまた先生のお人柄そのものの表われでしょうか、学問そのものを楽しんでおられるという風情があります。後進の研究者や学生にも、ときには人生におけるロマンの切実さを語ってやまない程の若々しい情熱を持ち続けられ、物事にこだわらない先生のご性格と相俟って、先生のおられるところ、まことに春風のごとき暖かい雰囲気、お酒の少しでも入れはなおのこと、醸し出されるのであります。

ところで、本学部経営学科が増設されたのは昭和41年であります。経営学科の設置およびその充実に関しては、先輩諸氏のご努力もさることながら、一貫してまさに二大支柱ともいうべき役割りを果たしてこられたのが両先生であります。おかげで時流をリードする経営学科が育ってきたのであります。

以上のようなかすかずの立派な業績を残された両先生を、いま定年退職ということでお送りしなければならなくなりました。両先生にとっては思い出多い経済学部を去られることは、万感胸にせまるものとおありと拝察しますし、われわれ経済学部教員といたしましてもまことにお名残り惜しく別離の淋しさをしみじみ感じている次第でございます。両先生のご功績を讃えわれわれの感謝の気持ちの一端を表わすものとして本冊を編集し、両先生に捧げるものであります。今後ますますご健康に留意され、ご活躍なさいますようお願いいたしますとともに、いつまでもご指導を賜わりますようお願い申し上げます。

大阪府立大学経済学部長

福 原 行 三